

区政と議会のホンネを報告!

# せたがや 1/50

〒157-0063 粕谷 3-15-3 (TEL&FAX 3307-1179)

グーグル検索等で、おおば正明 と入力すれば おおば正明 @ 世田谷区議 がヒットします。私のホームページです。

世田谷区の新基本構想

よく知っている 0.7%  
少し知っている 17.2%  
今初めて知った 79.7%  
(2013年区民意識調査より)

役所情報・不正そのほかとんでもないことを御存知の方はメールで

110ban@t3.rim.or.jp

http://www.t3.rim.or.jp/~110ban/

http://ooba.muse.bindsite.jp/

世田谷行革 110 番

世田谷区議会議員 おおば正明

第53号別 2014年4月

## 保坂区政の無策無能ぶり 赤字が止まらない がやがや館 区立レストラン



### 「がやがや館」連続赤字の記録更新

	収入	支出	収支差額
4月	349万	2172万	-1823万
5月	272万	1417万	-1145万
6月	315万	1311万	-996万
7月	354万	1220万	-866万
8月	313万	1233万	-920万
9月	303万	1219万	-916万
10月	379万	1333万	-954万
11月	408万	1417万	-1009万
12月	408万	1533万	-1124万
1月	336万	1172万	-836万

遂にオープン10ヶ月で赤字1億円突破!

昨年4月に池尻にオープンした区立レストランを含む「がやがや館」(区は健康増進・交流施設と言っているが)の赤字がついに1億円を突破した。

この施設は保坂区政になって最初に手がけたと言える公共施設である。

私たちの会派は再三再四区立レストランやカラオケ施設など税金でやる事業で

はないと、議会で言い続けて反対をしてきたが、残念ながら保坂区長は強行して昨年の4月にオープン。その結果がこれである。

### 実は2年前の決算委員会で“異常な事業者”の問題を指摘

区はこの施設の運営事業者を平成24年夏に提案型公募で決めている。12の事業者が応募。

施設運営の仕組みは、事業者が区に運営費を払い、事業を行ってもらう契約。

簡単に言えば区は場所を提供し、さらにお金を渡して、レストラン事業や健康増進事業やカラオケ事業をしてもらう、というもの。(まあ、この時点で公共事業かどうか問題です!)

その結果、何と運営費ゼロ(区は運営費は払わない)でもできます、という提案をしたのが世田谷サービス公社。

他の事業者は右上表のように最低でも3千万円から1億円を超す提案までであるなかで、異常な提案内容だったので。

実は世田谷サービス公社というのは区の外郭団体で、区が直接やる事業をこの世田谷サービス公社に迂回させて口銭を稼ぐ、トンネル会社のような性格持つ会社です。さらに世田谷サービス公社の出資の9割は世田谷区の出資であり、幹部は区の天下りで占められています。

### “安物買いの銭失い”を地で行く保坂区政

結局、平成24年の事業者選定で、世田谷サービス公社の0円提案に決定。業界相場からみても破綻する事業計画と委員会で主張しても保坂区政は、耳を貸さず、サービス公社の提案は魅力的だ、との一点張り。

「初年度と次年度は600万円程度の赤字だが、3年目から黒字達成」という世田谷サービス公社の説明に選定委員が納得したとまで、言う始末。

結果はどうでしょう。初年度で600万円の赤字とは、聞いて呆れる数字です。オープン1年を待たずして1億円の赤字。ケタが2つも違う事業計画などあるのでしょうか。世田谷サービス公社の赤字は世田谷区民の資産の赤字であり、原資は税金なのです。

## 各紙が取り上げ大問題に

東京新聞 2013年9月18日

開設5カ月で5700万円の赤字 世田谷区立施設  
世田谷区の外郭団体「世田谷サービス公社」などが運営する区立健康増進・交流施設(池尻2)の利用者が伸び悩み、四月の開設から五カ月で計画をはるかに上回る五千七百万円の赤字を出していることが分かった。十八日の区議会定例会で区側が報告した。

施設は民間事業者が建てた複合施設を区が購入して設置。カラオケセットのある交流室、健康マージャンの遊べる娯楽室などを設けた。公社は区と五年契約を結び、当初二年は赤字で、その後は黒字に転換すると計画。本年度の赤字は六百万円と見込んだが、交流室などの利用者は想定を大幅に下回った。公社は八月末、人件費の削減などの改善策を打ち出した。区生涯現役推進課の久末佳枝課長は「赤字が続いても区の持ち出しはなし」と説明するが、問題を抱えた大庭正明議員は「区が株の九割近くを持つ外郭団体の資産が減る。ニーズもないのに施設をつくられた(小形佳奈)」と憤った。

毎日新聞 2013年9月18日

目指せ「がやがや」

世田谷交流施設が伸び悩み今年4月にオープンした世田谷区立健康増進・交流施設「せたがやがやがや館」(同区池尻2)の利用者数は、営業室が6、8月までの実績は当初計画の3分の1にとどまり、累積赤字は5700万円。17日の区議会では、運営見通しの甘さを指摘する声が相次いだ。「オープンから5カ月の惨状たるや、『がやがや』どころが『がや』を通り越して『はら』だ。『世田谷行革110番』が指摘すると、議場から失笑がこぼれた。同館は、高齢者を中心とする世帯の健康増進や生きがいづくりを目的にオープン。カラオケができる交流施設や囲碁、健康マージャンができる娯楽室、レストランやトレーニング

### 読売新聞

2013年(平成25年)10月10日(木曜日) 世田谷

世田谷「がやがや館」赤字5700万円

4月開館 委託の公社「読み甘かった」  
世田谷区立健康増進・交流施設「せたがやがやがや館」(池尻2)の利用者数が伸び悩み、今年4月の開館からの5か月間で約5700万円の赤字になっていることが分かった。施設利用料で経費をまかなえるとして、委託料0円で指定管理者になった世田谷サービス公社は「夜間の利用者が思ったほど伸びておらず、読みが甘かった。てこ入れを図っていきたく」と釈明している。

同館は、高齢者を中心とした健康作りを目的としてオープン。カラオケ付きの交流室やマージャンセットを備えた娯楽室、レストラン、インストラクターが常駐する運動室などが入る。同公社は「エフエム世田谷」の運営や区民センターの維持管理などを手掛け、株の約9割を区が保有する。他の応募者は3000万円、5000万円、1億円の提示したが、区は「委託料だけでな

く、運営方針やサービスの質といった内容を総合的に判断した」と説明する。共同事業者の事業計画では、5年間の契約期間のうち、1年目は約600万円の赤字、3年目以降に黒字化するはずだった。同公社によると、同館全体の個人利用者数は、4月の4272人から9月は6176人と増加傾向にあるが、8月までの利用者数は、娯楽室で目標の約20%、運動場で約35%と低迷する。同公社は「オープンから時間がたつておらず、利用者の伸びしろはある。事実を受け止め、黒字化に向けて最善の努力を尽くす」と話している。

## それでも赤字は続く保坂区政

上掲の記事はすべて昨年9月の決算委員会で取り上げた時のもの。左上の収支差額の表を見て下さい。昨年9月以降も、毎月1千万円前後で赤字幅は拡大しています。(※保坂区長がとった対応策とは年間1500万円掛けて三茶から池尻まで無料バスを走らせるというもの。もう末期的症状!実験したら誰も乗らないので中止になりましたが)繰り返しますが世田谷サービス公社の赤字は9割出資しの世田谷区の損失です。(もっと言えば過去30年に渡り世田谷区の仕事に迂回させ27億円の貯金をしている会社なのです。元は全部税金。)

私たちの会派(無所属・世田谷行革110番)は最初から、こんな娯楽施設などやめ、足りない保育所、病後児保育の施設にしると主張してきました。この件に限らず、保坂区長の経営感覚と解決能力の無さには目に余るものがあります。